

令和8年（2026年）4月28日

「スマート田んぼダムによる地域防災力強化及び持続可能な農業推進に関する連携協定」を締結しました

越谷市（市長：福田晃）、株式会社ニイザカファーム（代表取締役：新坂真之、以下「ニイザカファーム」）、NTT東日本株式会社埼玉南支店（支店長：霜鳥正隆、以下「NTT東日本」）は、令和8年4月22日（水）に、「スマート田んぼダムによる地域防災力強化及び持続可能な農業推進に関する連携協定（以下、本協定）」を締結しました。

本協定に基づき、水田の水位操作において「NTT東日本」のICT（情報通信技術）・自動化技術を活用することで、越谷市は、頻発・激甚化している洪水などの水災害に対し、水田が持つ雨水貯留機能を利用した田んぼダムの治水効果を定量的に検証します。また、「ニイザカファーム」は、実証フィールドの提供及び、水田の水位操作を遠隔で行い、水管理作業（給水・排水・見回り等）の負担軽減などを検証します。

将来的には、「スマート田んぼダム」による営農の効率性を図りながら、防災力の向上と地域農業の生産性向上を両立させた持続可能な農業経営モデルの構築を目指します。

※本協定及びスマート田んぼダム事業の詳細は別紙をご覧ください。

【問合せ】

環境経済部農業振興課長 佐藤 亜実

TEL：048-963-9193



(報道発表資料)

2026年4月28日

越谷市
株式会社ニイザカファーム
NTT 東日本株式会社 埼玉南支店

「スマート田んぼダム」による 地域防災力強化と持続可能な農業推進に関する連携協定を締結

～官民連携による、ICT を活用した水害対策と営農負担軽減を両立する取り組み～

越谷市（市長：福田 晃）、株式会社ニイザカファーム（代表取締役：新坂 真之、以下「ニイザカファーム」）、NTT 東日本株式会社 埼玉南支店（支店長：霜鳥 正隆、以下「NTT 東日本」）は、2026年4月22日に、「スマート田んぼダムによる地域防災力強化及び持続可能な農業推進に関する連携協定（以下、本協定）」を締結いたしました。本協定は、これまで越谷市と官民連携で進めてきた田んぼダムの実証^{※1}を踏まえ、治水効果の定量的・継続的な検証と、営農現場の負担軽減を同時に進める点が特徴です。地域農業と防災を一体で捉え、将来的な社会実装を見据えた先進的な取り組みです。

※1：「ICT 装置を活用した『水田ポテンシャル調査』に関する連携協定」締結

<https://www.ntt-east.co.jp/saitama/news/detail/pdf/hp20240723.pdf>



向かって左より

ニイザカファーム 代表取締役：新坂 真之

越谷市長：福田 晃

NTT 東日本 埼玉南副支店長：高橋 功貴（代理出席）

1. 背景と目的

近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、集中豪雨や台風などによる水害が全国的に頻発・激甚化しており、越谷市においても、河川流域や低平地を中心に浸水被害リスクの高まりが課題となっています。一方で、地域農業においては、生産者の高齢化や担い手不足が進行しており、営農の省力化や持続可能な農業経営の確立が求められています。

こうした状況を踏まえ、越谷市では、営農を継続しながら地域の防災・減災に貢献できる手法として、水田が本来有する雨水貯留機能を活用した治水対策「田んぼダム」に着目してきました。そこで、ICTを活用した地域課題の解決に取り組んできた NTT 東日本の知見や技術力を生かし、2024 年 7 月から 2025 年 11 月まで、NTT 東日本、ニイザカファームなどの官民連携により、田んぼダムに関する実証実験^{*1}を進めてまいりました。これまでの実証実験を通じて、ICT 装置やセンサーを活用することで、人手を介さずに水田の水位を把握できることが確認され、田んぼダムによる雨水貯留効果の可視化や、中干期間を延長した場合の「J クレジット」認証手続きへの活用につながるが示されました。

本協定は、これまで越谷市と官民連携で進めてきた田んぼダムに関する実証や検証の成果を踏まえ、ICT・自動化技術を活用した「スマート田んぼダム」として、治水効果の定量的かつ継続的な検証を行うとともに、生産者の水管理作業（給水・排水・見回り等）の負担軽減や適切な水管理による安定生産の実現を目的としています。あわせて、中干期間の延長等による「J クレジット」制度の活用を通じて、温室効果ガス排出削減による環境負荷の低減と、農業経営における新たな収益機会の創出を図ります。防災力の向上と持続可能な農業の実現を両立させる新たなモデルの構築をめざし、地域に根ざした取り組みを進めていきます。

2. 協定概要

協定名称：スマート田んぼダムによる地域防災力強化及び持続可能な農業推進に関する連携協定

協定期間：2026 年 4 月 22 日～2027 年 11 月 30 日

締結場所：越谷市役所 本庁舎 4 階 庁議室

締結者	越谷市長	福田 晃
	ニイザカファーム代表取締役	新坂 真之
	NTT 東日本 埼玉南支店長	霜鳥 正隆

3. 実証概要

実証期間：2026 年 6 月上旬～2027 年 11 月 30 日

実証場所：埼玉県越谷市大字船渡地内外の水田（約 28,000 m²）

実施内容：

(1) スマート田んぼダムの導入効果

- ・治水効果：降雨時の田んぼの水位の状況から治水効果を検証
- ・操作性：遠隔操作に要する操作時間、操作回数などから操作性を検証
- ・導入効果：水管理作業に要する時間を費用換算し、導入効果を検証

(2) スマート田んぼダム管理体制の検討

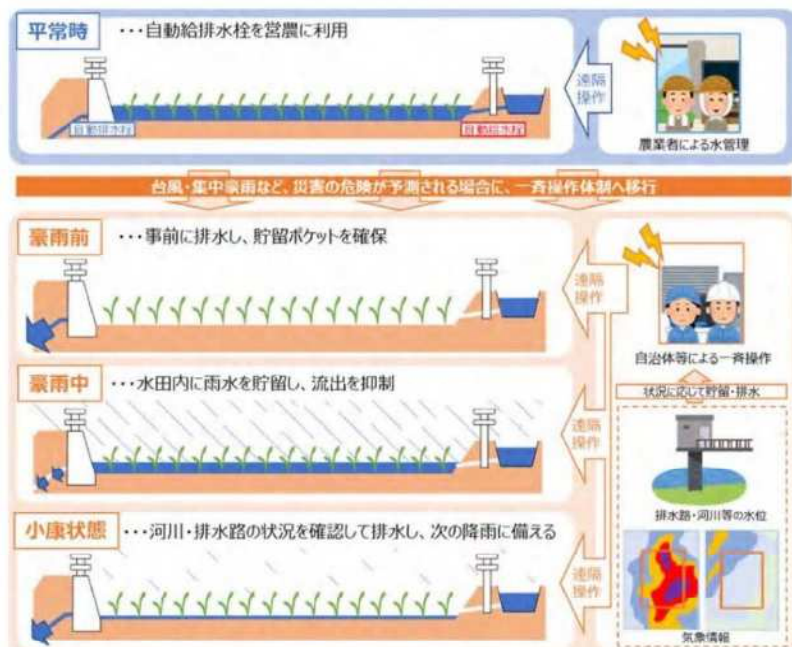
- ・運用体制：平時および緊急時における水管理作業の役割分担や対応体制について整理、検討

<スマート田んぼダムイメージ>

ICT（情報通信技術）を活用し、治水対策として水田が持つ雨水貯留能力の向上と農作業における水管理労力の低減を両立する取り組み

●主な機能

- (1) 平常時：水田ごとに遠隔操作や自動制御で水位を管理、確認。
- (2) 大雨や台風時：水害が予想される場合に機器を集中管理により一斉に操作。事前排水や河川・水路の水位低下後に排水を行い、「田んぼダム」の機能を強化。



4. 各者の役割

越谷市	： ICT 装置を活用した水位操作による田んぼダムの治水効果検証 将来的な展開を見据えた管理体制の検討（平時・緊急時） 生産者、地域等ステークホルダー対応
ニイザカファーム	： 田んぼダムの実証フィールドの提供 スマート田んぼダム導入による水管理労力の負担軽減検証 センサー取得データの提供
NTT 東日本	： ICT 装置の設計・調達・設置 ICT 装置、センサー機器の運用・保守

5. 今後の展開

今後、2027年度までは実証を継続し、スマート田んぼダムによる治水効果や営農面での省力化効果について、データに基づく検証と知見の蓄積を進めていきます。これらの成果を踏まえ、2028年度以降は越谷市内への本格展開をめざし、5か年をかけて段階的に田んぼダム化を広げていく構想のもと、地域農業の生産性向上と行政の防災対策の両面で効果のある取り組みとして推進していきます。

6. 本件に関するお問い合わせ先

越谷市 環境経済部 農業振興課 TEL：048-963-9193

NTT 東日本 埼玉南支店 ビジネスイノベーション部まちづくりコーディネーター担当 TEL：048-229-2461